

あいさつの効用

なぜ「あいさつ」なのか？

- 9月の生活目標「自分から進んであいさつをしよう」
 - この場合は、子ども一人ひとりの態度と行動の目標、めあて。
 - あいさつすることのよさに気づき、時と場、相手によって表情や声の大きさ、ことばなどを瞬時に考えて選択判断し、行動として表現する力をはぐくむ。
- 私が繰り返すフレーズ「あいさつ・返事・思いやり」
 - この場合は、学校全体として目指す学校の雰囲気。
 - あいさつを交わすことは、人間関係を肯定的で温かにし、時には安全の確保にも役立つ。

社会文化的コードとしての「あいさつ」

- 総じて「あいさつ」には、

他者との関係を築く力

社会のルールやマナーを理解し、守る力

異なる文化やあいさつを知り、尊重する力

自分の気持ちや心構えを素直に表現する力

などをはぐくむ効果が期待されます。

また、笑顔でさわやかにあいさつする場面が多くみられるということは、学校が全体としてあたたかく、安心できる場となっていることの現れともいえます。

上木崎小学校は

- ・「おはようございます」「こんにちは」など、自然にあいさつできる子どもが多いように感じます。（不自然に大声を張り上げたり、相手を威嚇するようなあいさつはほぼ見られない。）
- ・来校者（保護者、地域の方々）もよくあいさつしてくださる。

【子どもとのあいさつで私が心がけていること】

- ・どちらが先、後にこだわらない。
- ・あいさつすることを押し付けない。
- ・できれば一言添える。

例えば「ありがとう」「元気かな」「大丈夫かな？」